

北海道に発生したボツリヌス中毒例について(1983)

Outbreaks of Botulism in Hokkaido (1983)

武士 甲一 亀山 邦男 三田村 弘

Koichi Takeshi, Kunio Kameyama and Hiroshi Mitamura

北海道におけるボツリヌス中毒は昭和26年に岩内郡島野村に発生したニシンのいづしによる食中毒例を中村、飯田¹⁾²⁾³⁾等が報告して以来一昨年迄に50例を数えた。昭和32年以降抗毒素血清が患者の治療に使用されたため致命率は著しく低下したが食中毒事例は散発的ではあるが依然として後を断たない。今回は岩内町とえりも町で発生した2例の食中毒例について報告する。

第51例

昭和58年4月25日、岩内郡岩内町字栄147番地の民家で同日午後10時30分頃自家製造のホッケいづしを摂食した家族4名のうち1名（主婦）が、翌26日午前0時30分頃から腹痛、嘔吐、下痢及び麻痺等の症状を訴え、早朝医師の治療を受けて入院した。

潜伏期間が約3時間、患者の主要症状は嘔気・嘔吐、腹痛、下痢、腹部膨満、麻痺等であったが体温は平常であった。以上の臨床症状から同町医師はボツリヌス中毒と断定し、ただちにE型抗毒素による治療を行った。

原因食品と推定されたホッケいづしは、患者の実家（神恵内村）で昭和57年11月に約5kgを例年どおり自家製造されたもので当所に送付された時点では酪酸臭を伴う腐敗臭は軽微であった。⁴⁾常法に従い⁴⁾、原因食品であるホッケいづし、患者便及び患者血清からのボツリヌスE型菌及びE型毒素の検出を試みたが何れも不検出に終っている。

第52例

昭和58年7月28日、幌泉郡えりも町東洋58番地の民家で同日昼食時自家製造のサメガレイきりこみを摂食した家族4名のうち1名（主婦）が同日午後4時頃よりボツリヌス中毒様症状を呈し、翌29日午前10時に同町内医院に入院した。

潜伏期間が約4時間で患者の臨床症状は嘔気・嘔吐、腹痛、下痢、口渴、かすみ目、眼瞼下垂、瞳孔散大、脱力感等であったことから医師はボツリヌス中毒と断定してE型抗毒素の治療を行った結果、患者は快方に向った。

原因食品と推定されたサメガレイきりこみは7月15日に漬け込まれ、7月25日から喫食されていたものである。浦河保健所が疫学調査を開始した時点ではすでにこのサメガレイきりこみは廃棄されていたため検査不能であったが、当所に送付された摂食者4名の便及び患者血清を常法に従い⁴⁾ 検査したところ、患者便からのみE型ボツリヌス菌が分離されたが、患者血清からのE型毒素は証明されなかつた。

文 献

- 1) 中村、飯田、中尾：ボツリヌスの疑い濃き食中毒例について、北海道立衛生研究所報、第2集、29~34、(1951)
- 2) 中村、飯田、中尾：ボツリヌスの疑い濃き食中毒例について、食品衛生研究、2、7~12、(1952)
- 3) 中村、飯田、佐伯：岩内郡島野村に起ったボツリヌス中毒について、北海道立衛生研究所報、特報、1~18、(1952)
- 4) 中村、飯田：その後みられたボツリヌス中毒発生例の検索について、北海道立衛生研究所報、第5集、19~23、(1953)